

# 行政視察報告

令和7年度の行政視察について報告します。所管事務調査に関する事業や、意見交換会のテーマに関する事業を中心に視察を行いました。

## 総務委員会 令和7年11月5日から7日

### ●熊本県熊本市（地域防災活動の優良事例について）

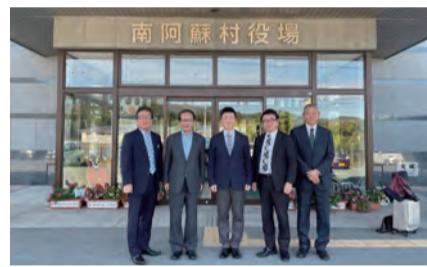
熊本市では、平成28年の熊本地震で浮き彫りになった市役所の実情や災害対応の課題を踏まえ、対応や備えを進めてきました。近年の地域防災活動の優良事例紹介のきっかけや概要についてご説明いただき、大変勉強になりました。

### ●福岡県大牟田市（防災情報集約システムについて）

大牟田市は、市内の防災の情報がリアルタイムで把握できるシステムを導入しています。導入経緯、事業予算、市内外からの反響や現状の課題、市民への浸透の程度など、導入から現在に至るまでの様々な情報をご提供いただきました。

### ●熊本県南阿蘇村（熊本地震の対応と復興について）

平成28年の熊本地震被災後の復興までの道のり、地震後同年に豪雨により受けた複合災害、地震の教訓を後世に伝承するための「熊本地震震災ミュージアム」等についてご説明をいただきました。



### ●委員長コメント

視察先各地で拝見した防災の取り組みは、災害に立ち向かう地域の力強さと日頃からの備えの重要性をあらためて実感させるものでした。

熊本市では住民が主体となって地域を守る実践力、大牟田市では迅速な判断と連携を重視する防災体制、南阿蘇村では甚大な被災を乗り越え復興に向け粘り強く着実に歩む姿勢。それぞれに地域の知恵と責任感がしっかりと表れており、この貴重な学びを立川市の防災力向上に生かしてまいります。

## 環境まちづくり委員会 令和7年11月4日から5日

### ●北海道札幌市豊平区

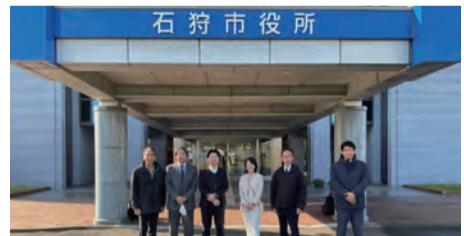
#### （とよひらまちづくりパートナー制度について）

環境美化に限らず、高齢者支援、地域防犯、防災、地域イベントへの協賛等、さまざまな分野で企業や市民とともにまちづくりに取り組む、「とよひらまちづくりパートナー制度」について視察しました。制度の概要、まちづくりパートナーと地域との連携をコーディネートするまちづくりセンターの役割、これまでの取り組み事例等、詳しくご説明いただきました。

### ●北海道石狩市（ゼロカーボンシティに対する取り組み）

#### （再生可能エネルギーの地産地活について）

令和2年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、令和6年に民間事業者と「再生可能エネルギーの地産地活モデル構築に関する協定」を結んだ石狩市を視察しました。洋上風力発電とデータセンターは現地視察を行い、大量電力消費源と発電施設を近距離に配置集約し、効率的に再生エネルギーを行き渡らせている状態を実際に目で見て学ぶことができました。



### ●委員長コメント

札幌市豊平区では、まちづくりセンターを拠点にし、清掃活動からお祭りのイベント、高齢者の健康確認の訪問など、とにかく活動の幅が広いことに驚きました。担当課職員は「まちづくりセンターがなければどうやって情報収集し、活動を広げていけばいいのか…というぐらい重要な拠点となっている」と語っていました。地域活動の拠点の必要性について大変学びになりました。

石狩市では、マイクログリッドシステムによる太陽光とグリーン水素を平時でも大規模災害時でも、地域にあるエネルギーを地域で上手に使う仕組みが構築されていることに大変感心しました。

## 厚生委員会 令和7年11月5日から7日

### ●岡山県岡山市（在宅介護総合特区について）

「高齢者が、介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会の構築」をコンセプトとした、ケアマネインセンティブ事業、訪問介護インセンティブ事業等、総合特区に係る事業についてご説明いただきました。

### ●兵庫県明石市（認知症に対する取り組みについて）

認知症になってしまって安心して暮らせるまちづくりをさらに推進するために定めた「明石市認知症あんしんまちづくり条例」を中心に、認知症にやさしいまち明石を目指す取り組みについて視察しました。

### ●兵庫県神戸市（こども・若者ケアラー事業について）

10代だけではなく20代・30代の若者も含め、「こども・若者ケアラー」の相談・支援を行っている事業の取り組み内容についてご説明いただき事業を開始するにあたっての課題等、委員からの質問にもご回答いただきました。



### ●委員長コメント

今回の視察では、岡山(在宅介護)・明石(認知症)・神戸(ヤングケアラー)の三市が、それぞれの立場から「どのような状態になってしまって地域で暮らし続けられる社会」の実現に挑んでいる姿に深い感銘を受けました。

制度を整えるだけでなく、地域や学校、市民とともに課題に向き合う姿勢には、地方自治の原点を見る思いでした。

立川においても、誰ひとり取り残さない支援のあり方を引き続き検討し、今回の学びを今後の市政に活かしていきたいと感じました。

## 文教委員会 令和7年11月6日から7日

### ●石川県金沢市（金沢文化スポーツコミッショナリについて）

金沢の文化とスポーツによる地域コミュニティ・地域経済の活性化、文化とスポーツの活用・振興、金沢ブランドの醸成・発信を目的として平成30年に発足した、「金沢文化スポーツコミッショナリ」について視察しました。どのようなメンバーで企画を考えているのか、イベントへの参加人数はどれくらいかなど、委員からの様々な質問にお答えいただきました。

### ●石川県加賀市（学校教育ビジョン“Be the player”について）

学びを変える、誰一人取り残さない、未来は自分で創る、地域と一緒に、の4つのプロジェクトを始動した、「学校教育ビジョン“Be the player”」について視察しました。これからは「人と違うこと」が強みになる時代。「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換を図り、子どもたちのwell-beingを高めるための教育の現状や今後の方向性をお聞かせいただきました。



### ●委員長コメント

金沢市では、スポーツと文化のコラボ、学生合宿の誘致など、新たな発想でスポーツの力を地域活性化に生かしている仕組みや取組みを学びました。コミッショナリが関係団体のハブ的役割、ネットワークの中心などといふ感じました。

加賀市では、学校教育ビジョンに掲げたスローガンに向かい、学びを変える、誰ひとり取り残さないなど4つのプロジェクトが進められていました。モデル校はつくらず、試行錯誤しながら取り組んでいるとのことでした。「一番困っている子が自力で進むことができる手助けをする」との言葉が印象に残りました。